

市民活動への期待

開始時が一番の盛り上がりではない組織作りを。

どんな組織でも理念を掲げて、活動を開始する。開始時には一番熱が入り、色々と議論や工夫をし、賛同者を求めたりする。その事がとても楽しく、やりがいを感じるものだと思う。時が過ぎて一応活動の見通しがついた頃から大変だ！が始まる。決めたことをこなすことにばかりに注意が払われて、楽しかったことが苦痛になって行くことがしばしば起こる。人材不足、資金不足、場所の問題、人間関係etc

市民活動にとって一番大切にしたいことは人と人のつながりだと思う。理解しあっていたはずなのにわかってもらえていなかったというコミュニケーション不足が最大の原因ではないだろうか。人の立場に立って考えることが出来ているかを見つめ直して、活動をしたいものだ。

次々に新しいアイデアを出し、事業を膨らませることも、活動を活発にすることになるし、仲間との話し合いの時間を持つきっかけにもなる。別の組織との連携や協働も新しい仲間との出会いになり、自分達の活動を見直す良い機会となる。無い物探しではなく、仲間と共に工夫をすることで活発な市民活動として欲しい。



人と企業と NPOをつなぐ

HI・RO・BA



地域力を高める メッセージコーナー

NPO法人しみんふくし滋賀

専務理事 成瀬 和子(なるせ かずこ)さん

世間よし ~企業の社会貢献~

株式会社アットスクール

企業に限らず、市民と行政、行政と企業などの、新しい市民協働（パートナーシップ）のカタチを紹介します。

SEKENYOSHI

草津本校 滋賀県草津市大路1丁目18-28 藤井ビル2F
電話：077-565-7337 FAX：077-565-7347 ホームページ：http://www.at-school.jp

できることから始めよう。不登校の子ども達がいらない社会へ

株式会社アットスクールは、草津市を拠点に発達障害や不登校の子ども達に特化した学習塾を運営している。代表の鈴木正樹さんは、滋賀県産業支援プラザの起業支援を受け、2005年に起業。アットスクールは、これからどのような社会を目指し貢献していくのか、代表の鈴木さんに聞いた。

鈴木さんは起業する前、教育相談員をしていたころ「うまく話せない」、「手先が不器用」、「勉強がきらい」という学業不振や不登校につながりかねない相談を年間200件以上も受けていたという。このことに問題意識を持った鈴木さんは、勉強会や研修会に参加するなどして理解を深め、不登校になる理由として子ども達の努力不足だけではなく、発達障害が深く関係していることに気付いた。現在、アットスクールでは、子どもたちの個性やニーズにあったオリジナル教材や教育システムを開発し学習支援に取り組んでいる。



▲保護者との面談風景。子どもに合った学習支援は何か、丁寧に面談をして一緒に考える。

また、子ども達が地域と

接点を持ち、これから社会に出て生きていくことがイメージできるように、地域イベントを年に一回行っている。地域の人の関わりでパン屋さんを体験。マ



▲生徒に個別指導を行っている風景。

イはしづくり、ランプシェードづくりなどを地域の協力を得て行ってきた。「発達障害、不登校の子ども達への学習支援をするだけではなく、もう一歩踏み込んで子ども達を社会へコーディネートする役割を持ちたい」と鈴木さんは語る。

アットスクールは、発達障害への理解が浸透し、不登校の子どもがいらない社会を目指し活動している。現在、大阪にも教室を開き、約400人の子ども達が通う。鈴木さんは「企業や地域、学校と協働して子ども達が成人したあとの自立就労するための雇用を創り出すことができれば」と今後の夢に力をこめた。「できることから始めよう」。代表の鈴木さんの語るこの言葉は、子ども達に、そして社会に響く。

(淡海ネットワークセンタースタッフ 膽吹 憲吾)